

第1回川越市市内循環バス検討委員会 会議要旨

1 開催日時	平成27年8月3日(月)午後2時30分～午後4時00分
2 開催場所	川越市役所東庁舎2階教育委員会室
3 出席者	久保田尚委員、関根一委員、原伸次委員、山口日出美委員、鈴木良枝委員、鈴木哲哉委員、原口一郎委員、大久保雄二委員、宮崎信二委員、秋山英夫委員、矢部竹雄委員、大岡敦委員、庭山芳樹委員、小谷野雅夫委員、高荷英利委員、熊本勝美委員(合計16人)
4 欠席者	吉田敏之委員、堀米康史委員、工藤憲一委員、渡辺義政委員(合計4人)
5 会議の公開・非公開	公開
6 傍聴人	2人

1 開会

2 委嘱書の交付

風間副市長から16人の出席者に委嘱書を交付した。

3 あいさつ(風間副市長)

本日の委員会では、正副委員長を選出が行われるとともに、川越シャトルについて、概況やこれまでの路線要望などのご説明をさせていただく予定である。

川越シャトルは、平成8年の運行開始から間もなく20年を迎えようとしており、現在も多くの方々にご利用いただいている。今後も、より良いシャトルを運行するため、忌憚の無いご意見をいただきたい。

4 自己紹介

出席委員16人が自己紹介を行い、欠席委員については、事務局が紹介を行った。また、伊藤部長ほか、市の担当職員5人を紹介した。

5 議事

(1) 委員長・副委員長の選出

(2) 委員長・副委員長あいさつ

指名推薦による選出の結果、委員長には久保田尚委員が、副委員長には鈴木良枝委員が選出され、委員長と副委員長が、それぞれ就任のあいさつを行った。

(3) 諮問

風間副市長が諮問書を朗読し、久保田委員長に諮問書を手交した。

(4) 川越シャトルについて

① 「川越シャトル」諸問題検討委員会（前委員会）の検討経過等について

資料1に沿って、事務局から説明が行われた。なお、質問や意見は無し。

② 概況について

資料2に沿って、事務局から説明が行われた。なお、質問や意見は無し。

③ 要望状況について

資料3に沿って、事務局から説明が行われた。なお、質問や意見は無し。

④ 委員会における検討課題について

資料4に沿って、事務局から説明が行われた。なお、質問や意見は以下のとおり。

(委員)

資料3の要望一覧を見るとICカードを使えるようにしてほしいとの意見があるので、是非バス事業者にもこれを考えていただきたい。

(委員長)

該当事業者に伝えていただきたい。

(委員)

資料4の中で乗り継ぎ拠点とあるが、どのようなことか。

(委員長)

事務局で説明をお願いしたい。

(事務局)

ある駅に3つの系統のバスが集まって、その駅の直前のバス停にも同じように3つの系統が運行している。具体的には、医療機関であるが、そのバス停まで行けば、乗り換えて別の場所に行くことができる事例となっているため、検討に値すると考え、そのように記載させてもらった。

(委員長)

その場合の料金については、前回の検討委員会でも議論があり、乗り継ぎ料金では無く、1日券で対応することになったと思うが。

(事務局)

そのとおりである。

(委員長)

今回、乗り継ぎ料金については、どのようにお考えか。

(事務局)

現時点で事務局案としては、白紙の状態である。

(委員)

資料3で、山田・芳野・古谷地区から、シャトルバスの要望は出ていないのか。府川に居住している高齢者で、シャトルが運行していないから東後楽会館へ行けないと話をしていた。この要望については、自治会から出されたものだけか。

(事務局)

資料3の要望や意見については、市民意見箱やメールだけのもので、電話によるものは載せていない。山田地区にシャトルバスをとという要望は、電話では聞いた記憶がある。

(委員)

資料2の2ページに、川越シャトルは車両台数が12台で、35～36人乗りのマイクロバスを使用していると記載されている。35～36人乗りのバスを使っても利用者が少ないのであれば、小型の車両を使用することで細かな路線運行ができると思う。その辺りの検討は、いかがか。

(事務局)

車両の小型化というと、昨年度デマンド型交通システムの実証実験を、タクシー車両を使用して実施した。結果は、利用率が芳しくなかったため、現在は検討がストップしている状態であるが、路線ごとの乗客数を参考に、そのような方法を取ることができるか、今後検討していきたい。

(委員)

事務局の説明で立地適正化計画の話が出たが、その成果の時期とシャトルバスの提言の時期は、どのような関係になるのか。

(事務局)

立地適正化計画は、都市計画課が所管して作業をしている。概ね20年先の将来を見据えて、今年度と来年度にかけて、策定する予定である。交通政策課の交通戦略は、今年度と来年度の2ヶ年をかけて策定する予定で、こちらは概ね10年先を見込んで策定する。

川越シャトルの見直しとの関係では、概ね5年に1回の定期的な見直しである。ということは、交通戦略は、シャトルの見直しで考えると今回ではな

く、その次の見直しの回で年数が同じとなるので、それに向けて今回のシャトルの見直しは、ホップ・ステップにあたる部分になると考えている。

ただ、交通戦略は、路線バスや道路の構造なども検討することとなっているので、広い範囲のものとなっている。

(委員長)

立地適正化計画と交通戦略の話は、全国的に初めてのこととなり、やや手探りのな感じがあるが、この議論の方向性が今後分かってくれば、調整していきたい。

(委員)

検討課題の中に、運行経費の削減とあるが、補助金額は一時は約2億円、昨年度はその半分近くまで減ってきている。削減目標はどれくらいに設定しているか、教えていただきたい。

(事務局)

具体的な目標額は、現在設定していない。安くて利用率が良い川越シャトルを目指し、今後は具体的な目標を立てて、検討委員会に提示していきたい。

(委員長)

今後は、難しいバランスの中での議論となると思われる。

(委員)

平成21年度から26年度までは、運行収入は概ね3,500万円から3,600万円推移している。それに対して、利用人数は、25年度は年度途中で路線の廃止があったため、この数値を除き、24年度と26年度を比較すると、24年度のひとりあたりの運行経費は約449円、26年度は約430円である。現実的には、ひとりあたりの持ち出しが減っているので、成果は出ていると考えられる。路線を縮小しているため、利用者数が減っているという事実があったとしても、事務局として今後どのあたりを目標としていくのか、指針を設定すれば検討委員会の中でも議論しやすいと思われる。

(委員長)

次回の検討委員会は、これを目安に、この指標をどれくらいに設定するかなど、具体的な数値目標を設定すれば議論しやすいと思われる。

(委員)

たとえば、運行経費をこれ以下に抑えろとか、利用人数はこれくらいにするべきなど、具体的な目標がある方が議論しやすい。

(委員長)

お客さんの乗り具合などの話が出たので、⑤のOD調査の速報値の説明を受けて、再度皆さんの意見を伺いたい。

⑤ 川越シャトルOD調査の速報値について

資料5に沿って、事務局から説明が行われた。なお、質問や意見は無し。

(5) その他

【会議の公開について】

・今回は、会議が始まる冒頭に委員に諮り、会議の公開を決定したが、次回以降は、以下のとおりとすることになった。

- ① 会議の公開の決定は、委員または事務局から非公開の発議または提案があったときに議題とし、決定すること。
- ② 会議の非公開の発議等が無い場合には、あらかじめ公開の取扱いとすること。

【会議録の作成について】

・会議終了後、速やかに会議要旨を取りまとめ、ホームページ等で公開することとする。なお、公開する前に、委員長が事前に内容を確認することとする。

【次回の日程について】

・次回は、10月7日（水）午前10時から開催し、場所については現在調整中。

6 閉会